

◎「場外市場」道の駅プラン

借地である現在の公設卸売市場の土地問題を解決の上、公設を外した民間市場に改変し、市場内を「卸売市場エリア」と「場外市場エリア」に区分し、既存の関連店舗施設を利活用した「場外市場」として付加価値を高めた道の駅を目指します。

卸売市場の持つ「安心・安全・安値・新鮮」のイメージによる近隣にない海産物も取り扱うことが出来る道の駅としてその集客力は計り知れません。



足利市公設地方卸売市場 配置図



「道の駅」に対する栗原代替プラン

◎農地は、農地として活用します！

「アグリカルチャーランド構想」

南部クリーンセンターの余熱^(注1)を利用したハウス(促成栽培)や露地栽培等による新規就農者に対する実践的実技指導を行うための「セミナーハウス機能」、首都圏住民を対象とした体験型農業施設による「集客機能」、地場産農作物等の「直売所機能」、収穫した農作物による「食品加工体験機能」等により、新規就農者育成と農業への理解と農業振興のための「アグリカルチャーランド構想」により我が国の農業と農地を守るとともに、農業振興地域^(注2)の活性化にも貢献してまいります。

(注1)
南部クリーンセンターは老朽化により現状では余熱利用が出来ず、大規模改修が必要になります。

(注2)
法に基づき農業推進が必要と定められた地域で青地と白地に区分されます。



どうなってるの??

どうなってるの？ 足利市の市税収入の状況

◎新たな仕事とのマッチング(一般質問で指摘)

平成25年度当初予算は505億円と前年度^(注3)に比べ1.4%増加していますが、これは国庫支出金と前年度繰入金が増加したもので、歳入の根幹を成す市税は約187億4600万円減の△0.6%、平成元年度以来23年ぶりに190億円を下回った昨年度をさらに下回るなど市税等の減少に歯止めが掛からず、これは本市の経済政策に効果がないばかりか本来こういう厳しい時には仕事の「地産地消」であるべきですが、逆に仕事の「市外流出」^(注4)となっており、これは大きな問題です。

(注3)
当初予算は498億1千万円、補正後最終的に511億1,100万円になっています。

(注4)
・直接流出
元請が市外業者
・間接流出
元請は市内施行能力がない業者ですが、市外業者へ丸投げ



どうなってるの？ 足利市の零細企業対策

◎減少し続けている市税収入(一般質問で指摘)

厳しい競争を生き残ってこられた高い技術をお持ちのいわゆる「家内工業」^(注5)を営む方は、販路拡大にまで余力が少ないと思われるため、この部分で市が後押しする施策を積極的に考えるべきとの栗原提案に対し、当局は持てる技術力をデータバ

(注5)
一般的には自宅の作業場で家内労働を中心に営む小規模の工業経営をいい、5人未満は工業統計調査にも数えられていません。

ース化し、インターネットを利用して小規模事業所ならではの技術や特徴をPRするためのポータルサイト^(注6)を立ち上げ、その技術を必要とする企業とのマッチングを構築する旨の回答^(注7)を得ました。



(注6)
答弁では「ポータルサイト」でしたが専用ホームページのことだと思われま。

(注7)
平成25年度中にシステムを構築する見込です。



どうなってるの？ 足利市の補正予算(第7号)

◎県の補正予算の獲得について(全員協議会で指摘)

国の補正13.1兆円は都道府県に配分され、栃木県では各市町に対し約333.2億円を配分し、これを受け足利市では補正予算(第7号)として本会議最終日(3月22日)に追加提案しました。

補正予算書(第7号)は、最終日の朝に議員へ配布され約1時間後の全員協議会で説明を受けるなど十分な審査時間がない中でしたが、私は「補正額3億1800万円(うち国・県から2億3431.7万円)では、国や県から予算を引っ張って来るのが十分でない。この予算で満足しているのか」等質したところ、「時間的余裕がなく十分な請求資料が整わなかった」旨の回答がありましたが、これは本市各事業課と県各事業課との事前調整が不十分・連携不足であり、残念ながら1円でも多く予算を獲得するという気概が当局には感じられません。

補正は、農業費602.5万円、道路橋梁費2億8460万円、都市計画費1億1150万円であり、その主な内容は道路改良工事、橋梁長寿命化、山辺西部第一土地区画整理事業費などとなっております。



どうなってるの？ 足利市の中学校女子制服問題

◎そもそも生徒や保護者から要望がないのになぜ？

足利市の中学校女子の制服はダサくて高いと、市長が女子制服の変更を言い出し、自ら広報誌「あしかがみ」で引き合いに出したのは、県北のある市の制服の画像とその価格が38,100円であるということでした。

同時に足利市は43,155円であると提示していましたが、実売価格は27,000円前後であり調査不足(情報操作)も露呈しています。

ちなみに、佐野市45,300円、宇都宮市51,000円、小山市70,000円、真岡市35,000円とも言われておりますが、残念ながらこういった例はお示しいたいておりません。

また、他市における制服の見直しは、そのほとんどが市の合併の際行われており、こうまでして、何故このタイミングで市長がご提案されたのか疑問であり、当事者である生徒や保護者、学校関係者からの要望は一切ありませんでした。

大人が口出しするのなら、キッチンと制服を着用する習慣を身に付けさせる事のほうがよほど教育的に大切なことだと思います。



県北他市中学校女子制服



市内中学校女子制服